

徳島市城西中学校

1. はじめに

本校は、平成16年の台風で、山のふもとの道路や校区内の主要な幹線道路が冠水するなどの被害があり、生徒たちの自宅も何らかの影響を受けた。災害時には生活道路が寸断されることも十分に想定できる地域である。日頃からの備えの大切さや災害時の切実さを体感したことから、平成17・18年度は「共生 すべての人と共に生きる」のテーマのもと、身近な課題の1つとして防災教育を進めてきた。各地の自然災害の増加にともない防災意識が高まる今、自らが生き抜くためにはどうすればよいか、また、大切な家族を守り抜くために地域で協力すること、お互いに助け合いながら、被害を最小限に食い止めるためには何をすればよいかを学習し、自助・共助の精神を養い、人と人との絆を深める実践を継続している。

過去の防災教育実施後のアンケート調査では、「フィールドワークやワークショップを多用し、地域との連携・協力を強く保つこと」が、関心度を向上させることにつながる結果となった。そこで、19年度は、関係機関や地域と連携した活動をより多く取り入れる方向で、学習を進めてきた。思考体験型防災訓練「こまった訓」・「人と防災未来センター 防災未来館」の見学・体験・被災者の講話、阪神・淡路大震災追悼イベントへの参加などである。今年度は、地域の一員として何ができるかを考え行動する、「自助から共助へ」を掲げ、災害時に行動できる人材の育成を図る防災教育をめざし取り組みを行ってきた。

2. 事業実施目標

- ・ 一人ひとりの実践的防災対応能力の向上を図る。
- ・ 小・中・高・地域との連携による防災ボランティア活動の実践力の育成に努め、地域と共に防災教育を実践する。
- ・ 大規模な災害が起こったときに、自分は何ができるのか・何をすべきなのか(共助)について考え、行動できる人材の育成を図る。

3. 防災学習年間計画

実施時期		学 習 内 容
6月	①	全校避難訓練（火災）
7月		総合的な学習(防災)オリエンテーション・意識調査等
		防災基礎学習 講話・VTR
9月	④	全校避難訓練（地震）
		千松小・城西中・城北高・地域合同による思考体験型防災訓練
		「人と防災未来センター 防災未来館」の見学・体験 阪神淡路大震災の被災者からの講話 北淡町震災記念公園(野島断層保存館)見学・体験
10月		体験型防災訓練を行っての振り返り

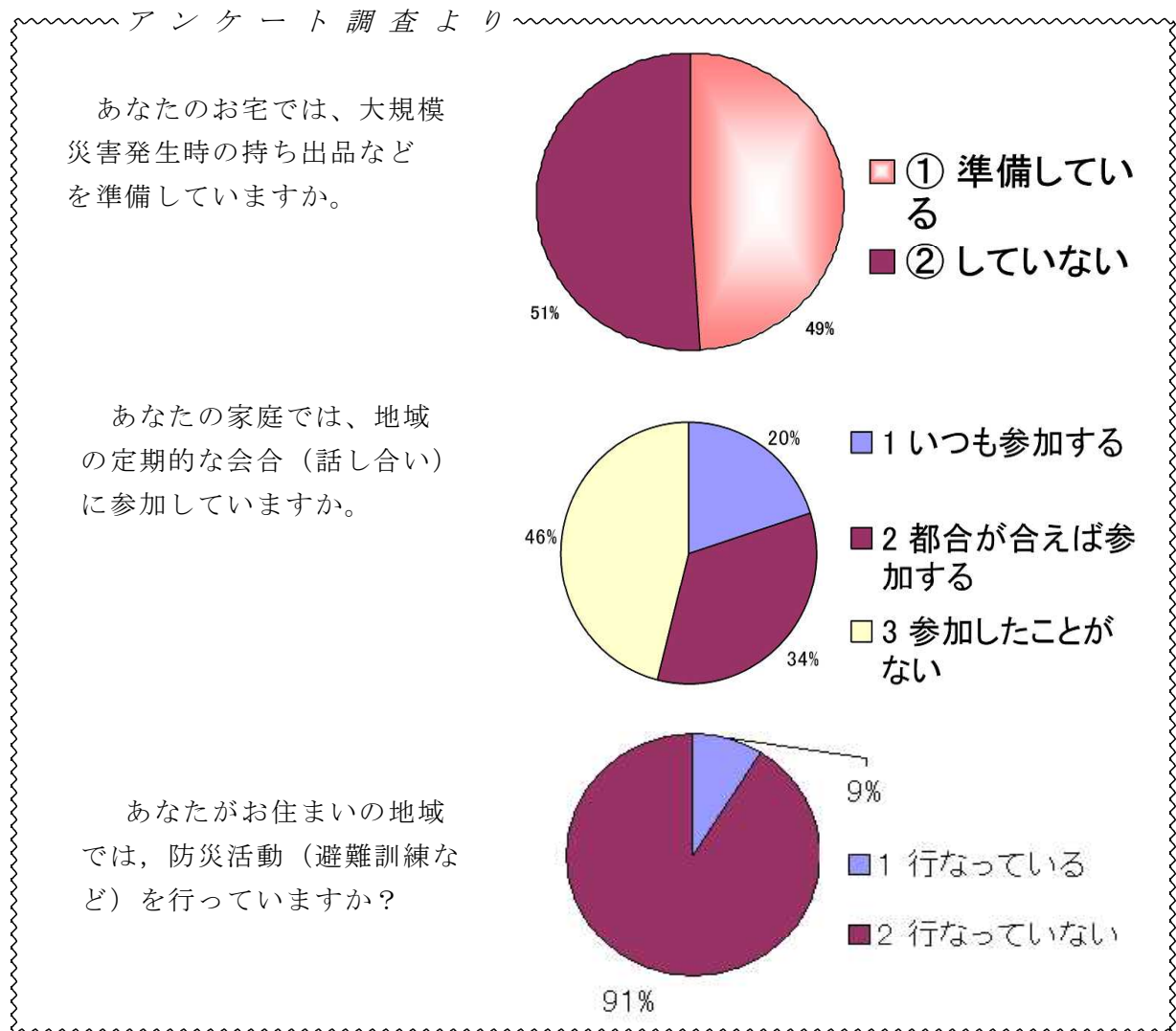
11月		防災カレンダー・防災標語等の作製
12月	⑨	避難シミュレーション訓練
1月	⑩	阪神・淡路大震災追悼イベント（分灯式）
	⑪	危険箇所マップづくり
2月		防災カレンダー等の配布
		学習のまとめ

4. 実施事業・内容等

(1) 7月2日(月) 13:35～14:25

総合的な学習(防災)オリエンテーション

意識調査等(今までの振り返りと、今後の取り組みについて)



大規模な災害が起こったときに、自分は何ができるのか・何をすべきなのか（共助）について考え、地域と共に防災意識を高めていくことを確認した。

(2) 7月4日(水) 13:35～15:15

防災基礎学習 講話・VTR

講師:徳島大学環境防災センター 黒崎ひろみ氏

協力:徳島市社会福祉協議会

(3) 9月23日(日) 9:00~15:00

千松小・城西中・城北高・地域合同による

思考体験型防災訓練「こまった訓」の実施

実施場所:徳島県立城北高等学校

参加団体:千松小・城西中・城北高の児童・生徒とその保護者

自主防災組織・地域住民

協力 :徳島大学環境防災センター, 徳島市社会福祉協議会

四国大学・徳島文理大学ボランティアグループ



◆ 9/23 朝 城北高校正門



◆ 受付



◆ 避難シミュレーションゲーム

災害は、ケガをして「困った」電気やガスが止まって「困った」タンスが倒れて「困った」と、日常生活ができなくなって「困る」ものである。従来の訓練は、場所から場所の移動であり、参加者が「困った」と感じる経験はほとんどない。この思考体験型防災訓練は、「体験」+「考える」という要素をとり入れ、訓練の参加者自身に被災生活の「困った」をよりリアルに想像してもらうものであ

る。保護者・地域住民も含めた異年齢の集団(小・中・高)でグループを組み、被災時に直面するであろう事柄を、グループで解決していく中で、「悩んだ」「困った」「みんなでいろんなことをした」と、いう具体的な訓練内容が記憶に残る。同時に「面倒」となりがちな訓練にゲーム的要素を加えることで、参加者が楽しみながら参加でき、その行動を振り返ることで、それぞれの役割と「自分はどうするべきか」などの思考も深まると考えられる。

そこで、災害時を想定し、そのときに起こるであろう事柄を、グループで考え乗り切っていくことで、それぞれが自分の役割を自覚し、何をなすべきかを思考する訓練を計画した。朝9時から午後3時までの6時間にわたる訓練で、70名余りの参加者があった。

受付では、氏名の確認と訓練での思考の過程を記録するためのフェイスシートを配布。小学生2名・中学生2名・高校生2名・保護者1名計7名の異年齢集団をその場でつくり、避難時に偶然居合わせた仲間であり、相談しながら過ごす1日のグループであることを、最初に説明した。

また、協力団体と小・中・高3校ので事前打ち合わせを何回も繰り返し、組織を作り上げた。飲料を含む炊き出し用の食料の購入・物品の選定・プログラム内容の検討など、様々な事柄を想定し、事細かに計画を練っていった。事前の役割分担と当日のプログラム責任者を決め、タイムスケジュールに従って、準備班・プログラム本番班・片付け班の3交代で、訓練がスムーズに進められるよう、教職員とボランティアを人数配分した。

集合場所となった城北高校食堂で、ニックネームを考え各自で自己紹介を行った。見ず知らずの即席のグループであったが、この作業のため、和やかなスタートとなった。このときに、6時間の訓練内容が説明され、1つ1つのプログラムを各グループで、協力し考え効率的に乗り越えていく「思考体験型の防災訓練」であることを確認し、スタートした。



◆段ボールによる簡易トイレづくり



◆水運びゲーム



◆炊き出し（昼食）



◆フェイスシートによる振り返り

— 訓練に参加した生徒の感想 —

- ・段ボールとビニール袋で、トイレがつくれ、意外と頑丈なのに驚いた。
- ・水は大事だが、重く、運びづらい。これからは、水を大切に使用したいと思う。
- ・レトルト食品も、無理をすればそのまま食べられることを知って、びっくり。

(4) 9月26日(水) 8:00～16:30

「人と防災未来センター 防災未来館」の見学・体験
 阪神淡路大震災の被災者からの講話
 北淡町震災記念公園(野島断層保存館)見学・体験



- (5) 10月 見学・体験のまとめ
体験型防災訓練を行っての振り返り
自分たちが今、何ができるかを考え、話し合う。

「防災標語」

- ・近所の人とのコミュニケーションを深めたい(4福田)
- ・1にあせるな 2にあせるな 3, 4に安全 5に協力(1福山)
- ・生きるってすばらしい。助け合いはとてもすばらしい(5山岡)
- ・日々平和に生きていることを当たり前と思わずに、生かしてもらっているという思いを
いつも心に生活していきたい(5大隅)
- ・裸足はだめ！あわてない！(5瀬尾)

- (6) 11月 実践的防災対応能力の向上のための
防災カレンダー等の作製のための準備①

- (7) 12月 防災カレンダー等の作製のための準備②

- (8) 1月13日(日) 14:30~16:00
阪神・淡路大震災13年追悼イベント(分灯式) in 神戸



(9) 1月16日(水) 16:30~18:00

阪神・淡路大震災13年追悼イベント(分灯式) in 徳島

「希望の灯り」分灯式のあたって

私たち城西中学生は、淡路島の「野島断層」や神戸の「人と防災センター」の見学・避難者からの講話などを通して、防災学習を進めてきました。野島断層では、地面を引き裂く自然の秘めた力をまざまざと見せつけられました。人と防災センターでは、人々の叫びと悲しみ・そこから立ち上がろうとする人間の強い力を感じました。また、小中高合同の防災訓練に参加することで、地域の人々と共に考え、動くことの大切さを知りました。

その1つとして、1月13日に「1.17希望の灯り」分灯のため、阪神淡路大震災の被災地である神戸市を訪れました。「希望の灯り」は、被災10市10町の種火と47都道府県の種火を1つにしたものです。被災した方々の「やさしさ」と「思いやり」そして、「生きている証」として、建立されました。この希望の灯りには、被災者の方々の様々な思いが、凝縮され精神的なよりどころにもなっています。私たちは、たくさんの犠牲者を出した阪神淡路大震災を決して忘れてはなりません。今回「希望の灯り」の分灯をさせていただいた私たちが先頭になって、ここに集まったみなさん一人ひとりの心の中に灯りをともし、さらに、家族や友へ、命の大切さを伝えていきたいです。(4細木・福田)



神戸の「希望の灯り」を徳島へ持ち帰り、1月16日午後5時46分に新町川公園ボードウォークで、徳島での分灯式が行われた。生徒会を中心とする数十名の生徒が集まり、災害時の映像を見た後、友から友へ、ろうそくに希望の灯りを灯していった。

(10) 3月 防災カレンダー配布

家族・友だち・地域の人々との絆の大切さを感じた。支え合って生かされていることをもっと自覚し、これからの歩んでいきたい。「防災カレンダー」を地域みなさんにもみてもらい、地域の防災力の向上に貢献していきたい。（1 三木）



(11) 3月 学習のまとめ

5. 成果

- ・生徒一人ひとりの実践的防災対応能力の向上につながったと思われる。
- ・小・中・高・地域との連携による防災教育の実践の1つが試行的に行えた。
- ・大規模な災害が起こったときに、自分は何ができるのか・何をすべきなのか（共助）について考え、行動できる人材の育成につながった。

6. おわりに

今年度は、隣接した小・中・高3校と地域との防災における連携を模索してきた。この取り組みの中で、年齢に違いはあっても、それぞれに役割があり、生き抜くために、力と知恵を出し合い、共に助け合うことの大切さをあらためて学んだ。防災教育の原点は、災害に備えて、意識を高めること・防災について正しい知識を持つこと・もしもの災害に、備えること、そして、家族や友、お互いを大切に思いやる気持ちが何よりである。これからも、地域に根ざした防災教育に取り組んでいきたい。

防災教育の実施にあたり、多数の皆様のご協力を頂きました。心より感謝いたします。